

特集 道の駅

広報なか特別号



みんなでつくる、新しい那珂市の道の駅

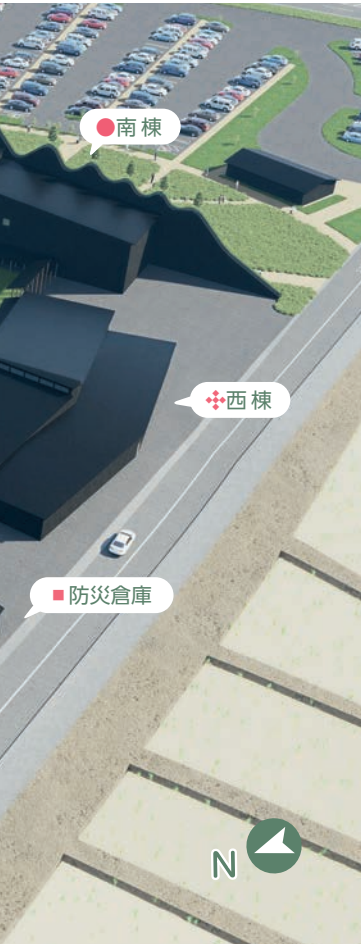
地域の魅力を発信し、人が集い、賑わいを生み出す新たな拠点として、道の駅の整備を進めています。

新しい道の駅の 舞台は、ここに

候補地は、交通アクセスや周辺環境、将来の活用可能性などを踏まえて選定を進めてきました。

建設予定地

茨城県那珂市飯田（飯田押敷交差点北西側）



理由

前面道路の交通量、那珂インターチェンジからのアクセス性、災害リスク、敷地の形状や造成のしやすさ、将来的な拡張性などを総合的に評価し、地域住民の利便性や観光拠点としての機能を踏まえて、現在の建設予定地を選定しました。



この立地だから実現できること

那珂インターチェンジに近い立地を生かし、市外・県外からの来訪者が立ち寄りやすい観光・交流の拠点として活用できます。また、地域住民の日常利用や情報発信の場として活用するとともに、周辺観光資源との連携を図り、地域全体の活性化を目指します。

台南通り

台南市と那珂市は、台南市内で「飛虎將軍」としてまつられている杉浦茂峰氏の母親が那珂市出身であったことを縁に、令和6年5月に友好交流協定を締結しました。

台南市内に新設された道路の名称が「那珂街」となることに伴い、令和7年10月、訪台した先崎光那珂市長が黃偉哲台南市長と面会し、両市の更なる友好を願い、那珂市の道の駅建設地に新設する道路を「台南通り」と命名することを直接伝えました。



…台南通りとなる道路

新しい道の駅の舞台は、ここに

道の駅は、買う・食べる・休むだけでなく、地域の魅力を知り、人と人がつながる場でもあります。地元の農産物や特産品、食文化、観光情報などを通じて那珂市の魅力を発信するとともに、市民と来訪者が交流し、新たな賑わいを生み出す拠点を目指します。

多彩な機能を備えた施設の全体像

● 南棟

(製造直売・フードホール・観光案内)

地元の食材を使ったオリジナルメニューを楽しめるフードホールを整備します。また、加工品の製造直売や、周辺観光の案内も行い、市内外の交流を広げます。

❖ 西棟

(農産物直売所・観光物産販売所・加工施設)

地域の農産物や特産品を販売する直売所を設けます。季節の野菜や花、加工品など、地元で作られた品を中心に揃え、市民の皆さまにも、観光で訪れたかたにも楽しんでいただける場所となります。

▲ 東棟

(カフェ・休憩スペース・トイレ・道路情報案内)

24時間使えるトイレや無料休憩スペースを備え、どなたでも安心して利用できる環境を整えます。カフェやベビールーム、授乳室も設置し、子育て中のかたやご高齢のかたにもやさしい空間となります。

★ 北棟

(屋内遊び場・子育て支援)

天候を気にせず遊べる屋内遊び場を整備します。さらに、子育てに関する情報を提供する機能を併設し、地域の子育て家庭をしっかりサポートします。

■ その他施設

(防災機能・交通アクセスの向上)

災害時の支援拠点として使える防災倉庫を設けます。また、高速バスの停留所を設置し、アクセス面もより便利になります。



◆ 南側駐車場トイレ棟 (トイレ)

東棟のトイレに加え、南側駐車場にもトイレ棟を設けます。駐車場から利用しやすい環境を整え、来訪者の利便性向上につなげます。

■ P 駐車場

一般車 406 台
(南側 295 台・北側 111 台)
大型 31 台
二輪車 30 台
の駐車が可能です。



道の駅を描く建築家

この道の駅は、那珂市の自然や風景に調和しながら、地域の魅力を未来へ伝える新たなシンボルとしてデザインされています。

藤森 照信氏

昭和21年、長野県に生まれ育ち、東北大学で建築を、東京大学大学院で建築史を学ぶ。東京大学教授として日本近代建築史を研究し、「明治の東京計画」「日本の近代建築 上・下」(岩波書店)、「建築探偵の冒険」(筑摩書房)、「丹下健三」(新建築社)などを出版する。現在、東京都江戸東京博物館館長、東京大学名誉教授、工学院大学特任教授。

代表作



滋賀県 ラコリーナ近江八幡

草屋根や自然素材を生かした設計が訪れる人々を魅了し、近年は年間400万人以上が訪れる滋賀県トップクラスの観光スポットとなっています。



岐阜県 多治見市モザイクタイルミュージアム

採土場をモチーフにしたユニークな建築が話題を呼び、年間 2.5 万人の想定を大きく上回る来館者を集め、開館 2 年目で累計 30 万人を超える施設となりました。



道の駅のデザイン

藤森照信氏の描いたスケッチ (右図)。

焼杉や漆喰を使った外観、回廊でつながる分棟構造など、この場所ならではの魅力が詰まった設計になっています。



● イメージパース



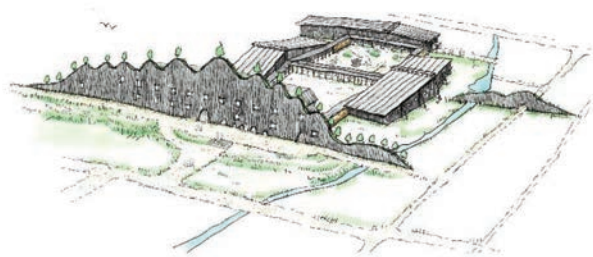
地域の魅力を生かした道の駅づくり

地域の恵みや人のつながりを生かした考え方をもとに、道の駅では多彩な機能や体験を展開します。

コンセプト

地
の
ゆ
め
。
地
の
と
き
。
地
の
も
の
。

那珂の大地から、
よろこびを、つぎつぎと。



地のもの 地域で育まれた食や特産品

那珂市の風土の味わいをみんなに
たくさん感じてもらいましょう。

地のとき ここで過ごす豊かな時間

いいモノ・コトを目指してみんなで
ワイワイやりながらこさえていく。
つくる人も、遊びに来る人も、働く人も、
ここに集うみんなの時間が豊かなものにな
っていく。

地のゆめ 地域の未来につながる想い

自分たちが作ったもので人々を
幸せにしたいという作り手の想い。
そして、それに気付いた人々が
「那珂市でよかった」と思ってもらえること。
その幸福感は、きっと外に伝わっていく。



地域の恵みを味わい、時間を共有し、夢を育む。
そんな体験が一つにまとまった場所が那珂市の道の駅です。



コンセプトを形にした 注目スポット

いろんな体験を
道の駅で



農産物直売所

地元の生産者から届けられる
新鮮な野菜や果物を販売し、
地域の農業を支えつつ、
消費者に安心でおいしい
食材を提供



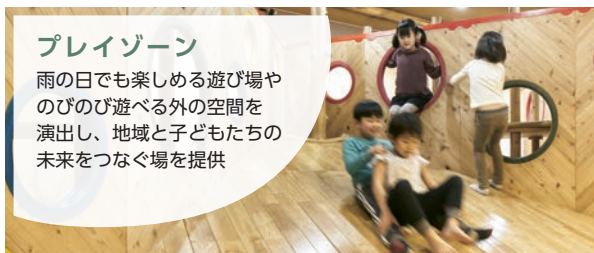
観光物産

地元の加工品やオリジナル
グッズで魅力を発信し、
来訪者に特別な思い出を持ち
帰ってもらえるスペースを
展開



プレイゾーン

雨の日でも楽しめる遊び場や
のびのび遊べる外の空間を
演出し、地域と子どもたちの
未来をつなぐ場を提供



飲食施設

地元の旬の食材を使ったオリジ
ナルメニューで地域の味覚を
気軽に楽しめる空間を演出し、
来訪者に食を通じた地域の
魅力を発信



食べたくなる、また来たくなる**飲食**コンテンツへ

地元食材を生かし、手仕事の温かみが伝わる多彩なメニューを展開します。
日常の軽食から家族で楽しむ食事、ここでしか出会えないスイーツまで、
道の駅ならではの“食べる楽しみ”をお届けします。

那珂大地の恵み

FOOD



かまど炊きおにぎり

かまどで炊いた地元産米と地元食材の具材で、素材のおいしさをまっすぐに味わえます。

FOOD



手作りサンドイッチ

地元食材を使い、具材の組み合わせや自家製ソーセージにもこだわっています。

FOOD



手作り加工肉・ハム

麦芽粕豚を使い、肉本来の旨味を生かした無添加・手作りの味わいが魅力です。

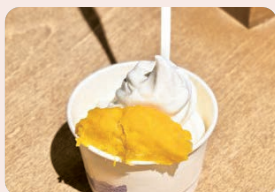
DRINK



クラフト麦茶

地元産の麦を使い、焙煎や香りの違いを一杯ごとに楽しめます。

SWEETS



ソフトクリーム

那珂市産のかぼちゃや干し芋など、地域の素材を生かした味わいが広がります。

FOOD



ご当地バーガー

常陸牛や麦芽粕豚など、地域食材のおいしさを食べ応えたつぷりに堪能できます。

DRINK



友好台湾カフェ

台南市との交流をきっかけに生まれた、台湾の味を気軽に楽しめるカフェです。

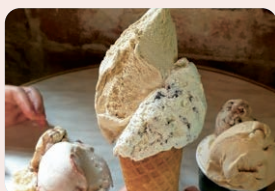
FOOD



高温窯焼きピザ

高温窯で一気に焼き上げた、外はカリッと香ばしい本格的な味わいが魅力です。

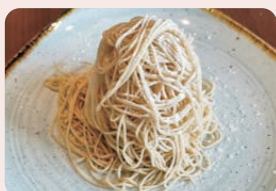
SWEETS



手作りジェラート

季節のフルーツや野菜を使い、素材の風味を生かした彩り豊かな味わいに仕上げます。

SWEETS



生絞りモンブラン

さつまいもやかぼちゃなど地域の恵みを使い、目の前で仕上げるライブ感も楽しめます。

FOOD



地粉うどん

地粉の風味に加え、カレーうどんや地元野菜の天ぷらなど選ぶ楽しさも広がります。

FOOD



本格イタリアン

常陸秋そば粉のピザや地産肉の料理を、昼も夜も幅広いスタイルで満喫できます。

農産物直売所を支える、生産者の思い

道の駅の直売所に並ぶ新鮮な農産物は、生産者の日々の努力とまっすぐな思いから生まれます。手間をかけ、心を込めて育てられた“いい那珂そだち”の魅力を、生産者の姿とともにお届けします。

いい那珂そだちの生産者たち



野菜それぞれの持ち味を大切にしながら、自然なおいしさを追求。トマトも甘さだけでなく、食感や後味まで大切にしています。

綿引 桂太



主な作物など

トマト、アスパラガス、ナス、キュウリ、ケール、かぼちゃ etc.



久慈川沿いの肥沃な土で育てるスイートコーンは、甘さと旨味が自慢。手間を惜しまず育て、期待に応える品質を守り続けています。

会沢 有紀／留美



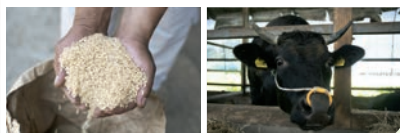
主な作物など

スイートコーン、キャベツ、ブロッコリー、コールラビなどの西洋野菜 etc.



米づくりと常陸牛を組み合わせた循環型農業を実践。自然にも人にもやさしい、安心できる農業を大切にしています。

峯島 勝則



主な作物など

米、常陸牛、そば、大豆、じゃがいも etc.



キャベツやにんじんなどを育て、学校給食にも提供。子どもたちが安心して食べられる、おいしく安全な野菜づくりに取り組んでいます。

小林 光輔



主な作物など

キャベツ、にんじん、じゃがいも、米 etc.



かき
花卉栽培に加え、食べられる花・エディブルフラワーの生産にも挑戦。シェフのこだわりに応える花づくりに、真摯に向き合っています。

市橋 陽平



主な作物など

季節ごとの花卉のほか、通年でピオラやマリーゴールドなどエディブルフラワー etc.



※出荷者組合設立準備委員会を立ち上げ、開業を見据えた農産物の安定的な供給体制の構築について、現在検討しています。

暮らしを支える道の駅へ

夏の暑さや雨の日も快適に楽しめる屋内の遊び場や子育て支援機能を備え、地域の子育て世代や訪れる家族に親しみやすい拠点を目指します。

プレイゾーン

子育て世代にやさしい施設づくり



concept
屋内の森林空間

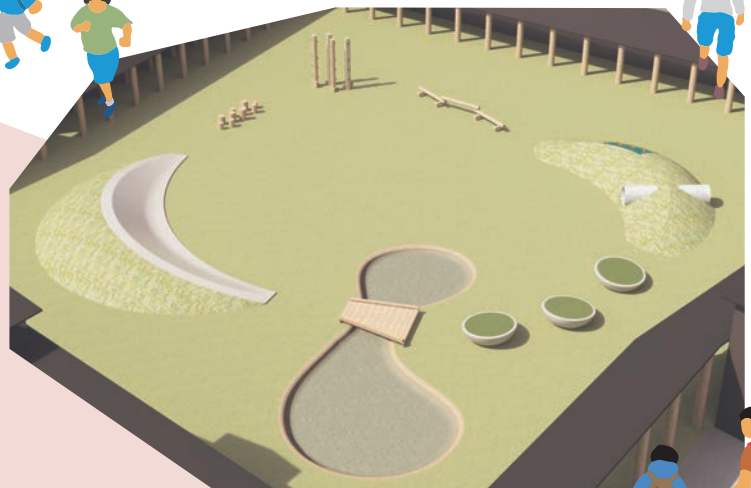
屋内プレイルーム

木のぬくもりを感じられる木育空間として整備を進めています。デザインには、那珂市の花であるヒマワリと特産品であるかぼちゃをイメージした明るいカラーを採用し、元気よく遊びたい空間を目指しています。乳幼児向けエリアには見守りベンチを設けるなど、安心して遊べる工夫も取り入れています。

concept
自由に遊べる屋外空間

晴天プレイスペース

遊具を円形に配置し、子どもたちが自然に次の遊びへ移れるような、遊びの連続性を意識した空間です。遊具には天然木を使用し、景観になじむやさしい雰囲気を大切にしています。また、築山の高さを抑えることで見通しを確保し、保護者が見守りやすいよう安全面にも配慮しています。



子育て支援センター機能を道の駅へ

地域子育て支援センター「つばみ」は、未就学児とその保護者が交流し、相談できる場として親しまれています。

一方で、現在の施設には老朽化や機能面での課題があります。そこで、道の駅の整備にあわ

せて子育て支援センター機能を移設し、子育て支援拠点としての機能強化を図ります。

遊び場や道の駅の各機能と連携することで、子育て世代にとって使いやすく、交流が広がる拠点づくりを進めます。

暮らしを支える道の駅へ

日常は人が集い、災害時には避難や支援活動を支える拠点として、防災機能を備えた施設を目指します。

防災機能

災害時にも役立つ施設づくり

- 道の駅には、防災倉庫や非常用トイレ、通信・水・電源などの設備を整備し、災害時の避難場所兼活動拠点として活用します。
- 近接するインターチェンジから常磐自動車道を活用することで、救援車両・物資輸送の中継所としての機能を担い、広域支援の拠点機能を発揮します。

貯水タンク

平常時は受水槽として利用する耐震性貯水タンクを兼用し、断水時の生活用水を確保する

1

無停電設備

停電時に電力供給を継続するため、非常用発電機を整備し、拠点機能の維持を図る

1

防災倉庫

災害時に必要となる食料・水・毛布・機材等を備蓄し、迅速な支援活動を可能にする

1

防災井戸

停電・断水時でも利用可能な井戸水を確保し、生活用水として必要最低限の供給を維持する

2

通信設備

災害時に通信手段を確保するため、特設公衆電話や無線等の非常用通信設備を整備する

3

ヘリ離着陸スペース

救急搬送や物資輸送に対応できる離着陸スペースを確保し、迅速な広域支援を可能にする

4

防災トイレ

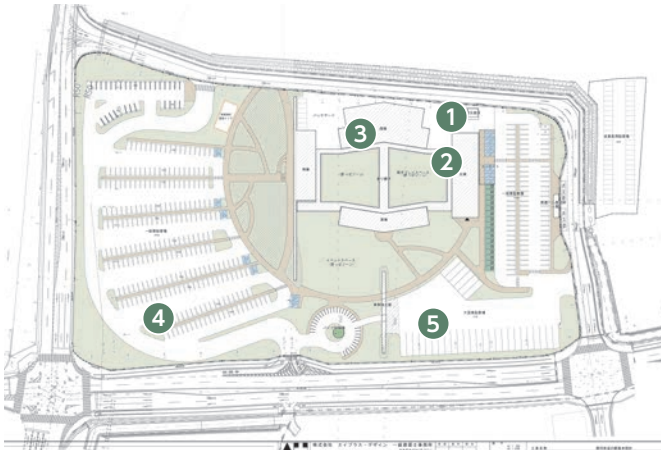
断水時も井戸水を北棟トイレに接続することにより、水洗機能を維持し、衛生環境を確保する

2

駐車場

避難車両の受け入れや物資搬送車の展開スペースとして活用し、災害対応の拠点性を高める

5



機能・設備	主な仕様	対応規模
防災井戸	親水設備兼用	北棟トイレへの給水
防災トイレ	北棟4基（大便器）	1基あたり100人想定
防災倉庫	面積：25㎡	約400人×3日間（食料・飲料水）
貯水タンク	受水槽兼用・耐震型	約400人×3日間（飲用）
通信設備	特設公衆電話	被災者が無料で利用可能
非常用発電設備	100kVA/ 連続稼働 72時間	停電時も重要機能を維持
ヘリ離着陸スペース	着地点：20m×20m	中型機まで対応
駐車場	面積：15,434㎡	消防、警察、自衛隊が展開可能



※画像は生成AIを使用して作成したイメージです。実際とは異なります。

一歩ずつ積み重ねてきた、道の駅整備の経緯

道の駅整備は、調査や検討、基本構想の策定などを重ねながら、段階的に具体化してきました。

令和元年度 ○ **可能性への挑戦—那珂ビジョン—を策定**
「活力あふれる那珂市」を実現するため、「那珂 IC を最大限に活用するまちづくりを推進」する方向性を明確化しました。



令和元年5月
可能性への挑戦
—那珂ビジョン—

令和2年度 ○ **活力あふれるまちづくり検討事業を実施**
那珂インターチェンジ周辺を核とした活力あふれるまちづくり検討委員会を設置し、「まちづくりの方針」を策定しました。

令和3年度 ○ **市場環境調査を実施**
「道の駅」整備の可能性を検証するため、競合分析や交通量調査を行い、計画の基盤を整えました。



令和3年3月
那珂インターチェンジ
周辺地域の「まちづくり
の方針」

**令和4年
10月** ○ **基本構想を策定**
候補地の選定やコンセプト・基本理念、導入機能の基本方針を整理し、基本構想を取りまとめました。

**令和5年
3月** ○ **基本計画を策定**
導入機能や施設規模、整備・管理運営手法を具体化し、道の駅整備の基盤となる計画を策定しました。

**令和7年
1月** ○ **市民説明会・パブリックコメントの実施**
基本設計（案）について、市民説明会やパブリックコメントを通じて、市民の皆さまから幅広く意見を伺いました。

3月 ○ **基本設計を策定**
施設設計やコンセプト、運営方針を具体化し、那珂市ならではの魅力を体感できるコンテンツの方向性を取りまとめました。

**令和8年
3月** ○ **実施設計を策定**
概算事業費や収支計画の精度向上を図るとともに、導入コンテンツの具体案や施設レイアウトを整理しました。

令和8年度 ○ **造成工事に着手**
施設整備に向けた造成工事を開始し、道の駅整備の基盤づくりを進めます。

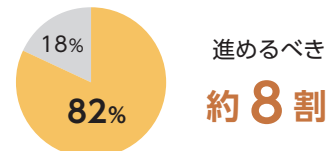
**令和9年度
以降** ○ **本体工事・外構工事に着手**
施設の建設工事と外構整備を進め、開業に向けた整備を本格化します。

**令和10年
秋ごろ** ○ **道の駅開業予定**
施設の完成後、道の駅として供用を開始します。
地域の魅力を発信し、人々が集う交流拠点としての活用を目指します。

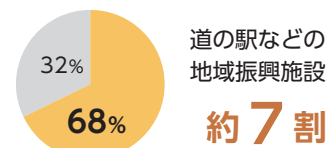
複合型交流拠点施設 「道の駅」の整備を方針決定

令和2年 市民アンケート調査結果

Q. 那珂 IC 周辺地域のまちづくりをどう思うか？



Q. まちづくりを進める場合、どのような施設が良いか？



- 市の魅力を発信する機能をもつ施設
- 市内産業の活性化を図る施設
- 市民の生活利便性、安心・安全を向上させる施設
- 市県北地域を含む地域振興を図る施設

道の駅

なぜ、**今** 道の駅なのか

市長メッセージ

那珂市長が語る、整備に込めた思いと那珂市の未来像についてお伺いしました。



道の駅は、 那珂市の未来への 投資です

道の駅の整備について、「なぜ今なのか」というご質問をいただくことがあります。

私は、この事業は単なる施設整備ではなく、那珂市の未来への投資であると考えています。

全国的に人口減少や少子高齢化が進む中、地域が将来にわたって活力を維持していくためには、新たな人の流れを生み出し、地域経済を循環させる拠点が必要です。

道の駅は、農産物の販売や観光案内を行うだけでなく、人と人が出会い、地域の魅力を発信し、防災拠点としても機能する、多様な役割を担う施設です。

那珂市の魅力を磨き、賑わいを生み、未来につなげる

那珂市には、豊かな自然や農産物、歴史や文化、そして何より温かい人々という大きな財産があります。

その魅力を市内外へ発信し、多くの人に訪れていただくことで、地域に新たな賑わいが生まれます。

その積み重ねが、市内事業者の活性化や雇用の創出につながり、若い世代が住み続けたい、戻ってきたいと思えるまちづくりにつながると信じています。

さらに、道の駅は災害時の支援拠点としての役割も果たします。いざという時に市民の安心・安全を守る拠点として、地域の強さを支えることも大切な使命です。

未来の子どもたちへ、誇れる那珂市を

私は、道の駅を「建てること」が目的ではなく、その先にある那珂市の未来を見据えています。

市民の皆さまが誇りを持ち、訪れる人が「また来たい」と感じるまちを目指し、将来世代へ希望をつなぐ成長戦略として、この取り組みを着実に進めてまいります。

また、市ではこれからも市民の皆さまとの対話を大切にしながら、寄せられるご意見やご提案を真摯に受け止め、より良い道の駅となるよう取り組んでまいります。

那珂市が持続的に発展し、誰もが幸せを実感できるまちとなるよう、市民の皆さまとともに力を合わせ、未来を切り拓いていきましょう。

那珂市長

先崎 光

概算事業費

道の駅整備事業は、建物を建設するだけではありません。農産物直売所や飲食施設、全天候型プレイゾーン、トイレといった施設本体に加え、造成工事、駐車場、広場などの外構工事も含めた事業です。実施設計に基づく概算事業費は、約 43.2 億円を見込んでいます。

なぜこれだけの事業費が必要なのか

道の駅は、買い物や休憩の場としてだけでなく、地域の交流拠点であり、災害時には防災拠点としての役割も担う施設です。

そのため、多くのかたが安心して利用しやすく、長く親しまれ、将来にわたって安全に使い続けられる施設となるよう、必要な機能を備えた整備を進めています。

● 財源について

道の駅整備に必要な費用は、市の一般財源だけで賄うものではありません。

国の補助制度や地方債などを活用しながら、計画的に整備を行っています。

市としては、活用できる財源を組み合わせながら、できる限り財政負担の抑制を図りつつ事業を進めていきます。



基本設計

実質的な負担額
9.6 億円

建築工事	29.3 億円
外構工事	
造成工事	

補助金等	10.4 億円
交付税措置	9.3 億円

実施設計

実質的な負担額
11.9 億円

増額理由

- 建設費の上昇
- 北棟面積の拡張
- 付帯工事の追加

建築工事	35.1 億円
外構工事	
造成工事	

北棟増床	0.9 億円
付帯工事	7.2 億円
補助金等	20.4 億円
交付税措置	10.9 億円

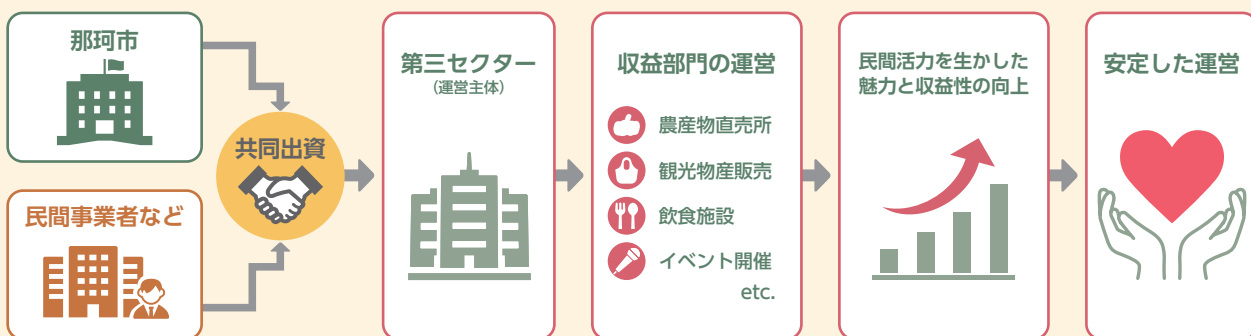
運営について

道の駅は、建設して終わりではありません。

開業後も、継続して安定した運営を行うことが重要です。

本市では、市と民間事業者などが出資して運営主体を設立する第三セクター方式を採用し、農産物直売所や飲食施設などの収益部門について、民間のノウハウや経営感覚を生かした運営を目指します。

公益性を踏まえながら収益性の向上を図ることで、安定的で持続可能な道の駅運営につなげていきます。



収支計画の検証

実施設計の段階で、利用者数の見込み、売上見込み、運営経費などをもとに収支シミュレーションを行い、事業の採算性を検証しています。開業後も、利用状況や収支の状況を継続的に確認し、社会情勢や利用者ニーズの変化に応じて、より安定した運営につなげていきます。

第三セクターの事業収支

売上高 約9.6億円

※施設使用料として、売上高の1%程度(約1,000万円)を目安に市に納付する想定です。

営業利益 約4,000万円

※営業利益は、市への納付金(施設使用料)を支払った後の額を示しています。

道の駅の管理運営

・ 収益部門 ・

主に地域振興機能(物販や飲食)の運営・維持管理

第三セクター



・ 公益部門 ・

公共サービス(主に道路休憩施設や子ども向けプレイゾーン)の維持管理

市



※納付金および公共サービスに係る費用負担の整理については、今後、市と第三セクター間の協議により最終決定します。

利用者数の推計について

道の駅の収支を考える上で、利用者数は重要な要素です。

年間利用者数については、前面道路の交通量や周辺施設の立地状況、先行事例となる道の駅の実績などをもとに推計しており、年間レジ通過者数は約95万人と試算しています。開業後は、実際の利用状況を継続的に把握・分析し、運営方法や集客施策の最適化につなげていきます。



よくある質問にお答えします

これまで多く寄せられた質問をもとに、道の駅整備に関する疑問にお答えします。

Q. なぜ今、道の駅を整備するのですか。

人口減少、地域経済の活性化、農業の振興、観光の推進など、本市が抱えるさまざまな課題に対応するためです。

道の駅は、買い物や休憩の場にとどまらず、地域産業の振興、交流の促進、防災機能の強化など、多様な役割を担う地域の拠点として整備を進めています。

また、道の駅の整備をきっかけに、地域全体の産業活性化や企業誘致、新たな雇用の創出につなげ、そこで生まれる地域経済の効果を福祉や教育などにも還元していくことを目指しています。

将来的那珂市を見据えた投資として取り組んでいます。

Q. なぜこの場所に整備するのですか。

交通アクセス、周辺道路網、防災面での活用、周辺施設との連携などを総合的に検討した結果、現在の計画地を選定しました。那珂インターチェンジに近く、市内外から利用しやすい立地であることから、多くのかたに利用していただける拠点になると考えています。

Q. 近隣にも道の駅がありますが、競合しませんか。

周辺の道の駅とは、立地条件や施設構成、導入機能が異なるため、単純な競合になるとは考えていません。

本市の道の駅は、那珂インターチェンジ周辺という交通利便性を生かし、通過交通の立ち寄り需要に加え、地域農産物の購入、飲食、子どもの遊び場利用など、複数の目的で訪れていただける施設を目指しています。

また、それぞれの道の駅が地域資源や特色を生かしながら、広域的な周遊の中で相互に連携することで、地域全体としての魅力や経済効果を高めていけるものと考えています。

Q. 市民はどのように利用できるのですか。

道の駅は、市外からの来訪者だけでなく、市民の皆さまにも日常的に利用していただける施設を目指しています。

農産物や特産品の買い物、飲食、休憩、子どもの遊び場利用など、日常のさまざまな場面で気軽に利用していただけるよう整備を進めています。

また、イベントや地域情報の発信などを通じて、観光客の立ち寄りだけでなく、地元の皆さまにも繰り返し利用していただける、身近で親しみやすい場所となることを目指しています。

Q. 農産物直売所に並べる商品は十分に確保できるのですか。

道の駅の直売所を安定的に運営していくためには、農産物や加工品などの商品供給を確保することが重要です。

本市では、地域の農業者や関係団体と連携しながら、出荷体制づくりを進めています。

那珂市の農業や地域資源を生かし、地元産品を中心とした魅力ある品ぞろえを目指すとともに、季節ごとの出荷状況や品目の偏りにも対応していく考えです。

開業後も、出荷者の確保や育成、商品構成の見直しを継続的にを行い、安定した商品供給と利用者には選ばれる売場づくりにつなげていきます。

Q. 災害時には、どのように活用されるのですか。

災害時には一時的な避難や支援活動に活用できる施設としての役割を担います。

施設には、防災倉庫や非常用トイレのほか、通信、水、電源などの設備を整備し、災害時の避難場所や活動拠点として機能するよう備えます。

さらに、近接するインターチェンジから常磐自動車道を活用できる立地を生かし、救援車両や支援物資輸送の中継拠点としても機能します。

茨城県地域防災計画への位置づけにより、広域的な支援に対応できる施設として整備を進めています。

よくある質問にお答えします

Q. 年間利用者数は、どのように算定したのですか。

道の駅のレジ通過者数の予測については、全国一律の標準的な算定手法が確立されているものではありません。これは、道の駅ごとに立地条件や施設規模、導入機能、取扱商品、周辺人口、観光条件などが異なり、利用実態に違いがあるためです。

そのため、県内の先行事例では、前面道路の交通量を基礎とした予測手法が多く採用されています。本市においても、こうした実務上の考え方を踏まえ、計画交通量に基づいて利用者数を予測しています。

Q. 収支計画はどのように作成したのですか。

収支計画は、利用者数の推計をもとに、直売所や飲食施設などの売上見込みを算出し、人件費や維持管理費などの運営経費を積み上げて作成しています。

実施設計の段階では、より実態に近い条件を反映し、収支計画の精度向上を図っています。

Q. 整備にかかる費用は、すべて市の負担なのですか。

整備費用のすべてを市の一般財源で賄うわけではありません。

国の補助金や地方債などを活用しながら、財政負担を分散させつつ事業を進めています。

市の実質的な負担額は、現時点で約11.9億円と試算しており、今後は実施設計に基づき、さらに詳細な財源構成を整理していく予定です。

Q. 運営が赤字になるリスクはありませんか。

道の駅は、飲食や物販などの収益部門と、トイレ、駐車場、全天候型プレイゾーンなどの公益部門で構成されています。公益部門にかかる維持管理費については、市が直営で管理を行い、収益部門については、運営主体が基本的に独立採算で経営する体制を整える考えです。

また、市としても定期的に運営状況や収支の状況を確認し、必要に応じて適切に対応を行い、経営の健全化に取り組めます。

Q. 今後のスケジュールはどのようになっていますか。

道の駅整備は、令和7年度に策定した実施設計をもとに、工事の段階に進んでいます。

具体的なスケジュールは次の通りです。

令和8年度：造成工事の実施

令和9年度以降：本体工事および外構工事の実施

令和10年度秋：開業予定

今後は、飲食コンテンツの開発や運営体制の整備を進めながら、事業を計画的に進めていきます。

整備の進捗状況や具体的なスケジュールについては、広報紙や市ホームページなどで順次お知らせいたします。

Q. 道の駅は本当に地域の活性化につながるのですか。

道の駅は、農産物の販売促進や観光客の誘客だけでなく、市民の交流、子育て支援、防災機能など、多様な役割を担う施設です。地域資源を生かした商品開発やイベントの開催、周辺観光施設との連携などを通じて、地域経済の活性化や地域の魅力向上につなげていくことを目指しています。

道の駅整備による産業の活性化に加え、地域への直接的・間接的な経済波及効果として年間約11.4億円を見込んでおり、その効果を地域全体に広げながら、那珂市の魅力を次の世代へ受け継いでいきたいと考えています。



道の駅の直売所への 出荷体制構築に向けた 生産者との意見交換会

申し込み
不要

●こんなかたのご参加をお待ちしています！

出荷について
知りたい！



情報交換を
したい！



もっと売上を
伸ばしたい！



詳しくはこちら



●お住まいの地区に関わらず、どの会場でもご参加いただけます！ご都合の良い日にご参加ください。

1

10月16日金

午後4時～5時
(受付:午後3時30分)

会場

ふれあいセンター
よしの
集会ホール

2

10月21日水

午後4時～5時
(受付:午後3時30分)

会場

ふれあいセンター
よこぼり
多目的室

3

10月23日金

午後4時～5時
(受付:午後3時30分)

会場

ふれあいセンター
すがや
多目的室

4

10月27日火

午後4時～5時
(受付:午後3時30分)

会場

ふれあいセンター
ごだい
多目的室

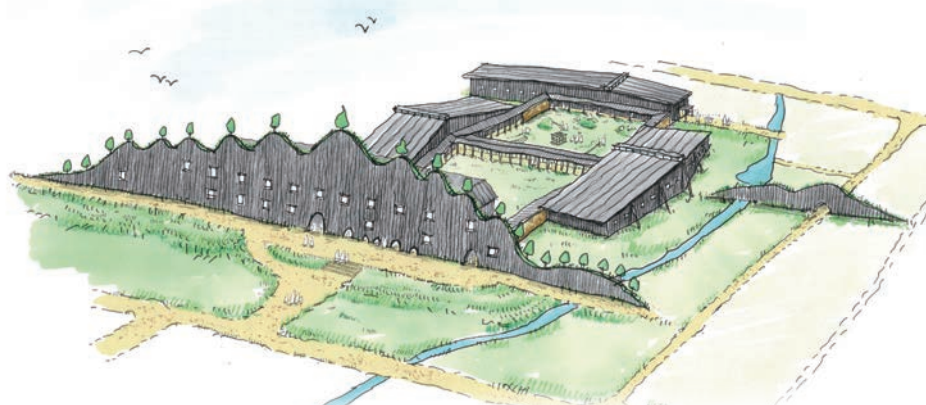
5

10月29日木

午後4時～5時
(受付:午後3時30分)

会場

総合センター
らぼーる
研修室1.2.3



藤森照信氏講演会

講演テーマ 自然を生かした建築と道の駅

10月31日(土) 午後2時～

総合センターらぼーる

要申し込み



詳しくはこちら

お問い合わせ

那珂市 道の駅整備課

☎029-298-1111

※この特集号は令和8年9月時点の内容をもとに作成しています。今後、設計や整備内容は変更となる場合があります。

特設ページも開設中です。
ぜひご覧ください

